



スーパープレッシャー気球の放球



スーパープレッシャー気球気象観測装置

写真提供：国立極地研究所

スーパープレッシャー気球気象観測装置の放球成功

2022年1月から2月にかけて、南極昭和基地において、明星電気の気象観測装置が取り付けられたスーパープレッシャー気球の放球が行われました。この観測装置は、明星電気が国立極地研究所 富川喜弘准教授らと開発したものです。南極大陸および南極海上空の高度19km付近を長時間周遊し、気候変動の予測精度向上につながる大気重力波※の役割解明を目的としています。この観測データが、イリジウム通信によって地上に送信されます。放球から着陸に至るまで、飛揚している間のすべてのデータが正常に受信され、貴重なデータが得られました。

明星電気は、ラジオゾンデの高層気象観測技術と衛星搭載機器の宇宙機開発技術を結集し、極域気象観測に貢献していきます。

※大気重力波 大気の密度差により生じる空気塊の上下振動から発生する波

(担当：宇宙防衛事業部、気象防災事業部)



マッチングセミナーでプレゼンする当社社員

防テクPFマッチングセミナーに参加

2月10日、内閣府が主催する防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム(防テクPF) 第3回マッチングセミナーに、九州支店が参加しました。

当日は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、オンラインで開催されました。九州管内の14自治体およびメーカーを含め約100名が参加した個別相談会において、各自治体で稼働しているPOTEKAのサービスや事例を紹介しました。自治体の課題に対応した説明を行ったことで、「短い紹介時間の中でも良く理解できた」とお言葉をいただきました。

今後もこのような機会に積極的に参加し、地域防災の安全・安心に貢献していきます。

(担当：九州支店)



新訂 竜巻

新訂 竜巻にPOTEKA観測データ掲載

「新訂 竜巻 メカニズム・被害・身の守り方」(著：防衛大学校 小林文明教授)に、明星電気のPOTEKAが捉えた2013年9月16日群馬県みどり市竜巻や2019年10月12日千葉県市原市竜巻の観測事例が紹介されました。

本刊には、スーパーセルと呼ばれる積乱雲から竜巻が発生するメカニズム、近年の気象観測技術の発達により捉えられた竜巻の観測事例と被害状況、それらから学ぶ竜巻からの身の守り方、更には最新の竜巻の予測技術などが丁寧に紹介されています。予測技術に関しては、2013年当時の伊勢崎市POTEKAプロジェクトの観測事例も紹介されました。

明星電気は、これからも人命や財産を守るための気象観測技術や予測技術を積極的に開発し、社会の発展に貢献していきます。

(担当：気象防災事業部)

【文中：敬称略】

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。